



# 寺報

2013年(平成25年)

No. 211

# 6月号

Zenkyo-ji monthly  
Communications Paper  
En [えん]

# 縁



山門横の手洗い鉢 善教寺「石」シリーズ その5

『宗祖大師650回忌記念』の文字が刻まれてある。

一昨年(平成23年)親鸞聖人750回大遠忌法要を勤めており、約100年前にこの場所へ据えたようである。

(辻本敬順氏「仏教用語豆辞典」参照)

機嫌は気分のよしあしを言う日常用語として、一般によく使われています。

機嫌は譏嫌と書き、仏教語でしゃ。譏嫌とは、譏は「そしる」、嫌は「きらう」という意味ですから、他人のそしりきらうこと、世の人たちが嫌悪することをいいました。佛教の戒律の中に、譏嫌戒といいましめがあります。これは行為それ 자체は罪悪ではないが、世の人たちからそしり嫌われないために制定されたそうです。人が不愉快に思うことはしない、というふうに思ふべきでしよう。

譏嫌を護るという語句も仏典にあります。他人のそしり嫌うことや、現在用いられている機嫌をとると同じだとうことです。

さらに、脚下降き物のことだけではなく、自分の足もと、自分の立つている立脚点、現実的出発点を意味しますので、脚下降き物のぬき方ひとつにも、細かく気をつけて、だらしなく不揃いなぬき放しなどするな、ということがあります。

さらに、脚下降き物のことだけではなく、自分の足もと、自分の立つている立脚点、現実的出発点を意味しますので、脚下降き物のぬき方ひとつにも、細かく気をつけて、だらしなく不揃いなぬき放しなどするな、ということがあります。

理想のみを追い求めて現実を忘れていないか。理論ばかりに走つて実践をおろそかにしていかないかと、常に自分を見つめ、反省する心が大切だというのです。現代は目まぐるしい時代です。しつかりと対処しないと遅れてしまします。しかし、そのような現象面だけを追い求めるのではなく、自分の足もとをしつかり見よと教えるのです。

「脚下照顧」は禅寺でよく見られる語句です。寺の玄関や入り口には、この四文字を木札に大書してあるのを、よく見受けることができます。

脚下は足もとのこと、照顧はよく照らして顧みることですかから、脚下照顧とは「足もとをしつかり見よ」という意味です。履き物のぬき方ひとつにも、細かく気をつけて、だらしなく不揃いなぬき放しなどするな、ということがあります。

「脚下照顧」は禅寺でよく見られる語句です。寺の玄関や入り口には、この四文字を木札に大書してあるのを、よく見受けすることができます。

脚下は足もとのこと、照顧はよく照らして顧みることですかから、脚下照顧とは「足もとをしつかり見よ」という意味です。履き物のぬき方ひとつにも、細かく気をつけて、だらしなく不揃いなぬき放しなどするな、ということがあります。

「脚下照顧」(きやつかしょうこ)は禅寺でよく見られる語句です。寺の玄関や入り口には、この四文字を木札に大書してあるのを、よく見受けすることができます。

## 楽しい仏教用語

その23

仏教語が一般に使われ気分とか気持ちの意味に変化していきました。

## 住職レター

五月に入り、田んぼでは田植えの真っ最中。お忙しい日々をお過ごしのことでしよう。

今月は、宗祖親鸞聖人のご誕生日です。

一一七三年(承安三年)五月二十一日、ご誕生になりました。宗祖親鸞聖人のご誕生を、共々にお祝い申し上げ、阿弥陀如来のお心をいただき、お念佛の人生を歩ませていただく尊いご勝縁であります。

さて、親鸞聖人の誕生の年、ご存知ですか?

西暦で記憶しておくと覚えやすいですから、お話のネタで使ってください。

親鸞聖人は一一七三年のご誕生ですから、「ひとひとなみ」人々並み」と覚えます。というのも、親鸞聖人の生まれ方が人並みだったからです。

一般に偉人・賢人の誕生には、不思議な出来事が伴い伝えられているもの。仏教の開祖・お釈迦さまの誕生には、天地が振動

して天から甘露の雨が降つたと伝えられています。花まつりで甘茶をかけてお祝いするのは、その故事によるもの。キリスト教でも、いろいろな不思議が伝えられています。



ご誕生 1173年

淨土真宗のお坊さんかも。(笑)



親鸞聖人らしいなうと、いつも思わせてもらっています。

ナンバープレート「一一七三」の車は、

淨土真宗のお坊さんかも。(笑)

